月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol. 171





お姉ちゃん戦争が勃発!?
一番の“姉”は誰だ!?

も～っと集まれ！ ファルコム学園

英雄伝説 空の軌跡
&
啄木鳥しんきのFalcom日和

『ZEMURIA GRAND ODYSSEY 19999-XXXXX』レビュー

ファルコムニュース

英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を



『イース』シリーズ 3作品の同日発売が決定！

FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

『イース』シリーズ3タイトルの同日発売が決定！

『イース』シリーズ３作品が７月31日に同日発売されることが決定！PlayStation 5で発売されるのは『イースVIII -Lacrimosa of DANA-』と『イースIX -Monstrum NOX-』の２作。そして、Nintendo Switch 2には、最新作『イースX -NORDIC』に新規ストーリーや多数の要素を追加した『イースX -Proud NORDICS-』が発売される。この夏はアドルと共に様々な冒険に飛び出してみよう！

イースX -Proud NORDICS-



本作の舞台「エーランド島」を舞台とした新規ストーリーが追加！

パッケージ版初回特典として『イースX -Proud NORDICS- 追加楽曲全集』が封入！

- ●ジャンル：アクションRPG
- ●対応機種：Nintendo Switch 2
- ●発売日：2025年7月31日
- ●価格：【パッケージ版】8,580円
  【ダウンロード版】8,580円



イースVIII -Lacrimosa of DANA-





- ●ジャンル：アクションRPG
- ●対応機種：PlayStation 5
- ●発売日：2025年7月31日
- ●価格：【パッケージ版】5,280円
  【ダウンロード版】4,840円

イースIX -Monstrum NOX-





- ●ジャンル：アクションRPG
- ●対応機種：PlayStation 5
- ●発売日：2025年7月31日
- ●価格：【パッケージ版】5,280円
  【ダウンロード版】4,840円

★お姉ちゃん大戦勃発★


セルセタ出身のヤツ出てこいや———!!
授業中だぞ 自分の教室に帰りなさいッ!!
も〜っと集まれ!
FALCOM
ファルコム学園
新久保だいすけ
うるさいな… セルセタ出身が何だってんだよ
あ…? 野郎に用はねーよ すっこんでろ
その条件なら何人かいるけど…
噂は本当だったか じゃあ全員ここにつれてこい!
セルセタの女だ! しかもアドルより年上はいないか?
授業中だぞ 自分の教室に帰りなさい…
ブツブツ
ちょっと皆さん! 無視されたダルク先生が小声で1コマ目やり直してますわッ


暴走のきっかけ
そこまでよカージャ よそのクラスに迷惑かけないで
止めるなアスカ まだ話は終わってねー
悪かったわね さっきまでご機嫌で私達と話をしていたんだけど
ピカー
スチャ
それがいきなり? 一体何があったんだ…
わからないわ… 確か自分がいかにアドルさんの姉として優秀か語っていたの
ちょっとイラッとしたんで「セルセタの樹海」にはもっと姉がいるわよって…
原因はお前やろがいッ!!


セルセタの樹海とは
「セルセタの樹海」… アドルさんの冒険記の中でも代表作とされるものの一つだよ
にょき。
おっ出たな 過激派アドル信者
代表作だけあって時代によって色々脚色される事が多いけど…
確かに誰かの姉だったりアドルさんより年上の女性が多く登場するね
そう! 私としてはセルセタ=姉ゲーという説を主張したいわ!!
よくわからんがあり得るゥ〜!
つまり僕もお姉ちゃん…?
落ち着いてお兄ちゃん

ヒロインの条件



暴力ヒロイン



袋小路のガッシュ



姉らしい方法



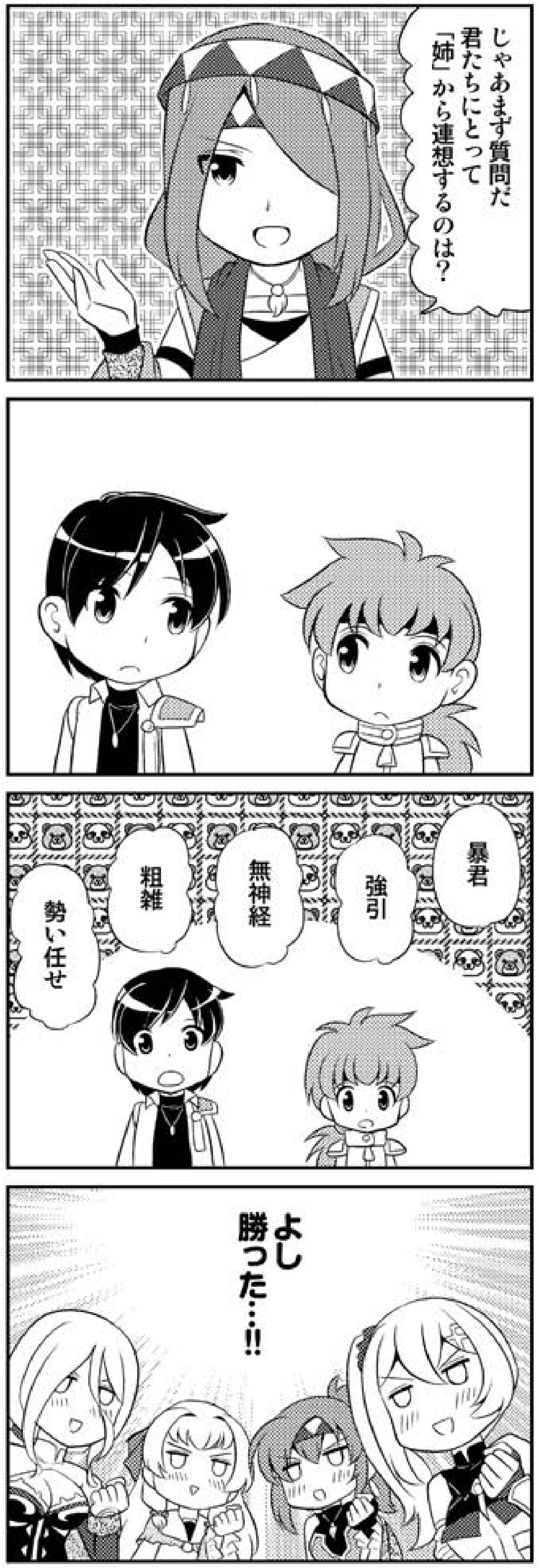
素朴な疑問



身内びいき



勝利の予感



姉への幻想



未知のカワイイ



お察しする弟たち



一番の姉



界隈の深淵へ



▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

全曲新アレンジ・新録音！ 軌跡の歴史を綴る音楽アルバム『ZEMURIA GRAND ODYSSEY 19999-XXXXX』絶賛発売中!!



サウンドで「軌跡」シリーズの歴史を綴る、オリジナルアルバム『ZEMURIA GRAND ODYSSEY（ゼムリア・グランドオデッセイ）19999-XXXXX』。カルバード共和国を舞台とした「黎明の時代」から「相克の時代（エレボニア帝国）」、「因果の時代（クロスベル自治州）」と歴史をさかのぼり、はじまりの舞台であるリベール王国編、「空の女神（エイドス）の時代」へと帰結する全四部構成、14の楽曲で「軌跡」の世界をお楽しみいただけます。

■価格：CD盤　3,080円（税込）／DL版　2,444円　単曲254円（税込）／ハイレゾ版　3,054円　単曲356円（税込）
※その他、定額音楽配信サービスでお聴きいただけます。

商品ページ
https:／／falcom.shop／products／detail／728

「創の軌跡」オリジナル新商品登場！

株式会社アルジャーノンプロダクトさんより『英雄伝説 創の軌跡』のグッズが登場。



■受注〆切：2025年5月11日（日）23:59
■発売元：株式会社アルジャーノンプロダクト

販売ページ
https://market.algernonproduct.co.jp/categories/6578364

『軌跡シリーズ』新グッズ発売中！

ファルコムショップのオリジナル商品に『軌跡シリーズ』の新グッズが登場！



ネクタイ 空の軌跡（アルセイユ）／閃の軌跡（50ミラ）

ビジネスシーンなどでもシックに着こなせるスタイリッシュなアーガイルデザインに、小剣にはそれぞれのイメージアイテムをワンポイント刺繍。日常にさりげなく『軌跡』をプラスできるこだわりの一品です。

■素材：シルク（絹）100%
■価格：単品　6,820円（税込）／ギフトBOX入　￥7,590円（税込）



クルーソックス 空の軌跡（ウロボロス）／零の軌跡（クロスベル）

「軌跡シリーズ」のクロスベル／身喰らう蛇の刺繍をあしらったクルー丈のソックスです。ビジネス（革靴）から普段履き（スニーカー）まで幅広くご着用いただけます。

■サイズ：約25-27cm　**■価格**：1,650円（税込）

本革ブックカバー 閃の軌跡



トールズ士官学院の紋章を刻印した本革ブックカバー。さりげなくロゴをあしらったデザインは普段使いにもピッタリ。
天然の本革を使用しているため使い込むほどに表情が変わっていきます。

■本体サイズ：約255mm×160mmm　**■価格**：5,500円（税込）



スリムボトル 黎の軌跡（4spg）

マットカラーがお洒落な「黎の軌跡（4spg）」サーモボトル。保冷保温に優れた真空二重構造なので季節関係なくお使いいただけます。

■本体サイズ：φ62×H222mm／**容量**：370ml　**■価格**：3,520円（税込）

ファルコムショップ	https://falcom.shop/page/2025spring

《OMNISHOP》新作グッズ＆常春セール！

工画堂スタジオさんより「閃の軌跡」新作グッズが登場。さらに、オンラインショップ「OMNI SHOP」にて<常春セール 2025>開催で、ファルコムグッズが大量にラインナップ！



■セール開催期間
2025年5月30日（金）16:00まで

工画堂スタジオ	https://www.kogado.com/sw/contents/hotnews/25spring_sale_mr3rhh_02.htm
OMNI SHOP	https://omnishop.kogado.com/items.php?ct=5&kw=

ゲーム版70分de名著。20年13作に及ぶ“軌跡”の大河を音で駆け抜ける新作アレンジ。

軌跡シリーズ各作品から数曲ずつピックアップした4部構成。神藤由東大が新解釈で編纂しなおすフルアレンジ作品は、軌跡シリーズ生誕20周年の嬉しい余波。

text by 井上尚昭(ゲーム音楽ディスクガイド)

ゼムリアとは「軌跡シリーズ」に登場する大陸のことで、単語を紐解くと〝彼の地を舞台に繰り広げられてきたグランド（壮大）なオデッセイ（冒険旅行）〟となる。つまり軌跡シリーズの音旅行というわけだ。

しかしながら、同シリーズは今年1月に「界の軌跡」のサウンドトラックを4枚組でリリースしたばかり。ファルコムは新たな作品を産むたび、抜粋曲をリアレンジしてのアルバムリリースを慣例としてきた。これは初めて1枚まるまる単一作品で制作した、1999年の『ソーサリアン・スーパーアレンジバージョン』から続く伝統である。つまり流れ的には「界の軌跡」のスーパーアレンジが届くのではないか、と見立てた人も多いと思われるが、それらをかわしてのシリーズ総括盤となった。実際には必ずしもオリジナルサントラ～スーパーアレンジの手順に則ってきたわけではない。「空の軌跡シリーズ」は、スーパーアレンジに加えて『空の軌跡ざんまい』（2013）と『We Love 空の軌跡』（2016）と2枚ものアレンジ盤が出ているし、「碧の軌跡」（2010）、「創の軌跡」（2020）に関してはアレンジ盤がなく、「黎の軌跡」（2021）に至っては《SUPER ULTIMATE》と銘打たれ、スーパーアレンジ盤の登場を待たないなど変容を見せている。

さて本作はリリース順の配置でなく、その《SUPER ULTIMATE》が出た「黎の軌跡」から「Open the Shard」で幕を開ける。元ネタにはなかったベルシンセのイントロ追加は、構成の大胆変更宣言だろう。実際、後半部には大サビ的に別曲へ展開。エレキギターとバイオリンによるヒロイックなロックフュージョンがトップを飾り、ゲームの仕様から解き放たれた自由な読み替えの楽しさを味合わせてくれる。ここでは詳述を避けるが、今作ではこういった前触れなき仕掛けが施されていて、聞き手の驚きを手ぐすね引いて待ち構えている。

次曲「Buster the Ghost of Garden」はオリジナルに忠実な導入だが、前曲のアウトロから繋がりが絶妙で、熱量キープの狙いが伝わる。中盤以降は奏者による弾けっぷりが聞き所で、書き譜の中での自由さに耳がいく。オリジナルには無かったオルガンの挿入もクラシックロックの雰囲気に一役買っている。

「黎」のゾーン最後となるM-3はラスボス大曲「Make a break through!」が鎮座。元曲がオケの為大筋での改変は少なめだが、アコギとソロバイオリンに主メロを置換することで、前2曲との橋渡しを行った。この曲、恐らくもっとバンド然とした編曲もスケッチされていたのではないだろうかと想像するが、本作においては〝最大限のスケールで描く〟と腹を据えたようにも思える。

第2のゾーンは「閃の軌跡シリーズ」へ時系列が遡る。ここでは聞き慣れぬ曲名が登場し、さながら軌跡クイズの様相となっている。1つはM-7「七の相克、そして未来へ」で、こちらは曲名から幾つかの曲を合体させたものと想像しやすい。しかし悩ませるのがM-4「有角の若獅子たち」で、そのものズバリの楽曲名がオリジナルにはなく、文字情報だけでは正解に辿り着けないようになっている。ファルコムからの挑戦状がこんなところにも設定されていた。

第3のゾーンは「零、碧、創」となり、そのうち「碧」「創」はアレンジ盤が出ていないので新人枠のような趣。M-10「Azure Destiny」は「碧」から「The Azure Arbitrator」の改題で、元が静と動の2部構成だったものを動に絞ったテクニカルツーバスメタル。引き算ベクトルでシンフォニーや教会コーラスの要素も思い切ってオミットしてある。

第4のゾーンはシリーズ初代の「空」。アコギとパンフルートなど小編成アコースティックのイメージが強かった「風を共に舞う気持ち」は、前述アレンジ盤『空の軌跡FC&SCスーパーアレンジバージョン』でオケ化していたが、ここでは更に推し進め、のっけからフルで鳴らして度肝を抜く。一旦終息したかと思いきや、バンド編成に切り替えてのバイオリンポップ展開は、胸のすく映画のどんでん返しを見た気分になるだろう。

アルバムラスト曲は『空の軌跡 the 3rd』（2007）から「Overdosing Heavenly Bliss」。バラード的なエンディングの風合いはそれまでに済ませておき、熱量の高いシンフォニックロックが置かれた。これは軌跡シリーズの続編か、はたまた現状未発売の「碧」「創」「界」単体フルアレンジ盤の匂わせか……そのどちらのティザー音楽にも聞こえるような締めくくりとなった。否、実際には、本作のタイトルに添えられた5桁の数字を見た時から、既にアルバム全体を予告編に見立てた聴衆は何人も居たはずである。



■商品情報

ZEMURIA GRAND ODYSSEY 19999-XXXXX

好評発売中

●価格

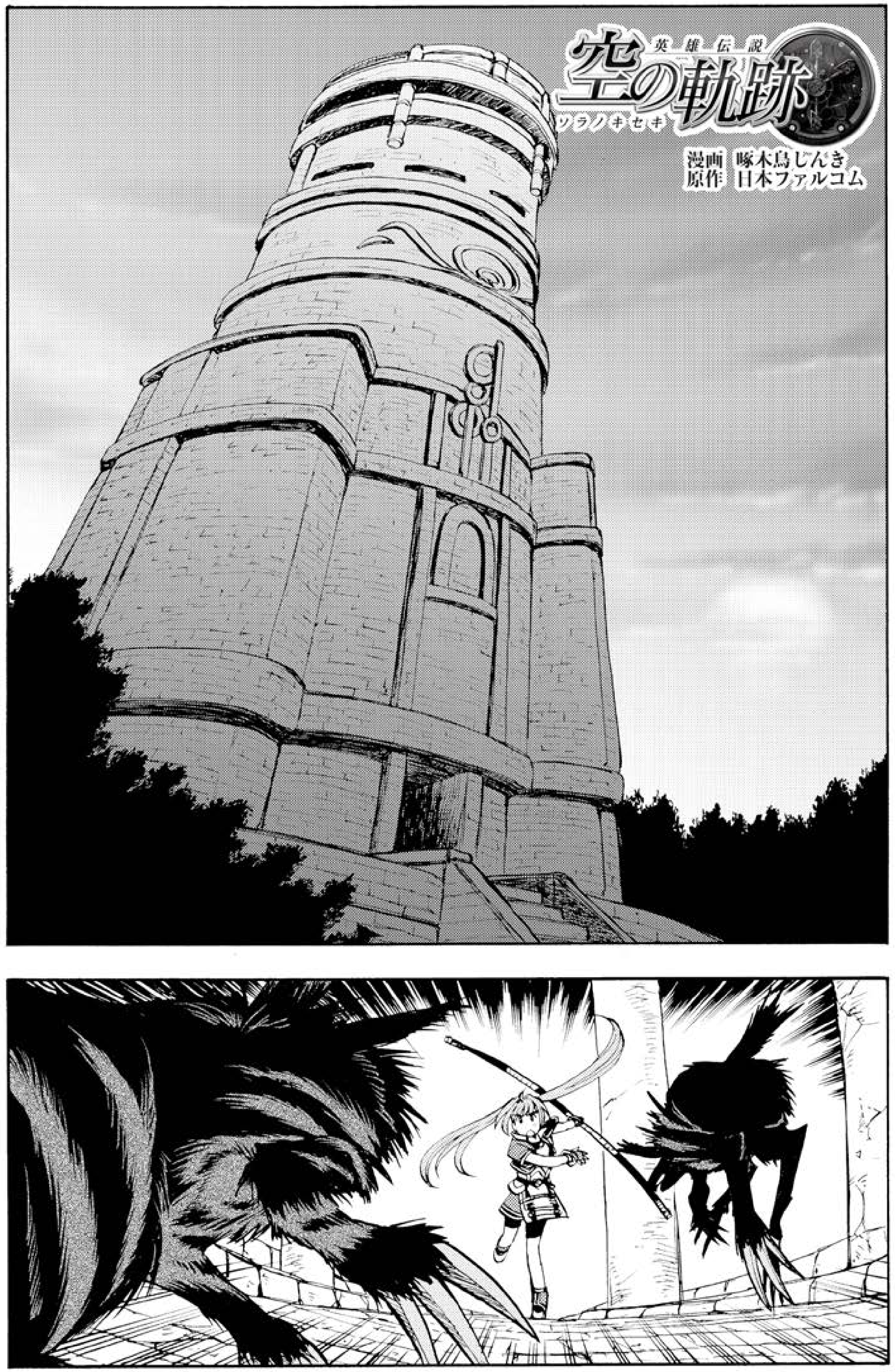
【CD盤】3,080円

【DL版】[アルバム]2,444円／[単曲]254円

【ハイレゾ版】：[アルバム]3,054円／[単曲]356円

※価格はすべて税込のものです

※ダウンロード版は配信サイトによって価格が異なる場合があります


英雄伝説
空の軌跡
ソラノキセキ
漫画 啄木鳥じんき
原作 日本ファルコム


リベール王国に姿を現した、
結社《身喰らう蛇》の牙・執行者たち。
その動きと示し合わせたかのような
エレボニア帝国の不穏な行動に王国は揺れる。
そして物語は、古代ゼムリア文明の精華・
リベル＝アークへと飛翔する！
リベール王国次期女王たるわたくしの名に賭けて！
英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～⑥
啄木鳥しんき
定価：1000円（本体909円+税） ISBN 978-4-8021-3294-7
発行：フィールドワイ 発売：メディアパル
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©Kitsutsuki Shinki
©FIELD-Y


なんなのよ こいつら!?
なんだか 普通の魔獣じゃ ないみたい…!
これは明らかに 特殊な訓練を 受けた動きだよ
訓練!?
魔獣に!?
これまでの 手口から見ても …黒装束達の仕業 である可能性が 高そうだね


俺は黒装束どもを 調べ始めてから 何度もこの魔獣の 襲撃を受けた
無関係である はずがねえ!
気をひきしめて かかれ!!
この先に 必ず奴らが いるはずだ!!


いた…!!
とうとう見つけたわよ!!


黒しょ…
ぽい!!
ちょ!!
なにす…
ばふ!
気持ちはわかるが落ち着け!!
むやみやたらに飛び出すな!!
目前の状況を正確に把握しろ!!
今この状況下で俺達が最も優先するべき事項はなんだ!?


……
ラッセル博士の身柄の確保…!!
…ならどう動く?
……
黒装束と…直接やりあうのは
あたしとアガット…ふたりだけの方がいいと思うの
ヨシュアは…
あいつらに見つからないように様子を伺いながら
博士の救出だけに専念してもらう…っていうのは?


まあ……セオリーか…
確かに小僧はスピードがあるし小手先のテクニックにも期待できる
この中では最も適任だろうしな
うん
それに
工房で…黒装束はアガットの姿を見てすぐにエレベーターで逃げたでしょ?
一緒に続いたあたしはともかく
あとから来たヨシュアの姿は黒装束から見えてなかった可能性もあるのよね
だとしたらヨシュアはノーマークで動けるわ!
だから一番重要な役割をお願いするのがい
い!?


上等だ！
気をつけて
エステル!!
いくぜ
ガキども!!
うん!!
そこまでだ!!
とうとう
追いつめたぜ
黒装束共!!


あの時の
遊撃士!?
まさか
ここまで鼻が
利くとは…
てめえらがいくら
無い知恵を絞っても
しょせんはこの程度
だってことだ
なっ
なんだと!?
あのスカした
仮面野郎が
いないのは
残念だが…
まぁ…
仕方ねぇ
てめぇら
雑魚で
我慢して
やるよ！
ふざけるな!!
バカに
しやがって…
邪魔者は
排除するのみ!!
俺らはあくまで
陽動でいい
とにかく奴らを
じいさんから
ひっぺがせ!!


はあっ!!
フフ…
パワーはあるが
その分動きが
大味になる
そこが
重剣の…
せいやっ!!
もっともらしく
人の解説なんか
してるけど
そーいうのは
自分の状況を
把握してからに
しなさいよねっ!
この…!!


アガット!!
おうよ!!


さあ!!
残るはあんただけね!!
そんな隅っこに隠れてないでちょっとはかかってきなさいよ!!
く…っ
その銃はただの飾りなの!?
い……
言わせておけば…!!


あ!!
ひ…
飛行艇!?
形勢逆転だな!!
まさか飛行艇相手にやりあうつもりはないだろう!?
う…
我々とて遊撃士を敵に回すつもりはない
武器を捨てておとなしく見ていろ
そうすれば命だけは助けてやってもいいぞ


ドオーン
だめえっ!!
なんだ!?
あっ!!
ティータ!?
くそっ!! 新手か!?
早く ラッセル博士を 飛行艇へ!!


ばっ
おっ
あっ!!
おじいちゃんをっ 返してえっ!!
ティータ!!
このガキが……!!


グラ…
アガット!!
きゃっ
オオオオ


ま…
待ちなさいよ!!
あ…
おじい…
ちゃん…
お…
おじいちゃぁぁん…


……
なんで…
…どうして…
…おじいちゃん…
…どうしてぇ…
うああああん
ふえぇぇぇぇん
ティータ…
おい
チビ
わああああ


へた…っ
ちょっ…
言ったはずだ!!
足手まといはついてくんなって!!


じいさんを助けるチャンスを逃した!!
おまえが邪魔したせいで
この責任どう取るつもりなんだ!?
おまけに下手な脅しかまして命を危険にさらしやがって!!
おまえみたいなガキがこの世で一番ムカつくんだよ!!


アアガットッ!!
力もないくせに出しゃばりやがって…
別にあのまま撃たれて死んじまったとしてもそれはおまえの自業自得だ
ガキひとりどうなろうが
俺の知ったことじゃねぇ……
……けどな
おまえが
そこまでじいさんを大事に想ってるように


じいさんに
とっても
おまえは
大切な家族
なんだろう?
そんなおまえが
自分のために
命を落として…
それでじいさんが
本当に喜ぶと
思ってんのか?


じいさんを…
助けたいんだろ?
だったら…
ふぬけてないで
シャキっとしろ


泣いてもいい
喚いてもいい
まず自分の足で立ち上がれ
てめぇの面倒も見られねぇような奴に
人助けなんざ…できるわけがねぇんだからな


博士の行方は未だわからず…か…


ですが
僕たちは…
遊撃士協会としては
引き続き事件の解決に
あたりたいと思います
よろしく
頼む…
中央工房も
助力を
惜しまないよ
どんなことでも
遠慮せずに
言ってほしい
ありがとう
ございます
早速ですが…
お願いしていた
件については…
ああ
徹底的に
調べ上げて
おいたよ
煙幕騒動前後で
中央工房から
なくなった物の
全リストだ
大半が
避難の際に
紛失した
職員の私物
だったんだが…
その中に
とんでもない物まで
消失していることが
判明した


博士が持ち込んだ
あの《黒の導力器(オーブメント)》と
演算室から
高速演算器
《カペル》が…
《カペル》…まで？
ああ
中枢ユニット部分が
ごっそり抜き取られて
いたんだ
黒の導力器のような
難解な代物の解析には
カペルの演算能力と
もちろんそれを
100％使いこなせる
ラッセル博士自身が
必要不可欠だろう
おそらく犯人は
そのことを
知っていて
博士と一緒に
持ち去った…と
考えるべきだろうね


工房の人達は黒の導力器の存在を知っていたのでしょうか?
それはない
私は誰にも口外してはいないからね
では…博士が誰かに話したのかも……
ヨシュアくん
見くびってもらっては困る
確かに…博士は導力器が絡むと周囲の迷惑を顧みない傾向もある
ツァイスで起こる導力器のトラブルは博士の仕業だと言っても過言でない…
え?
え?
だがねそれは
導力器というものを理解しきった彼だからこそ起こせる行動でもあるんだよ
そのラッセル博士が黒の導力器に限っては他言してはならぬと固くおっしゃった
助手もつけず部屋にこもってひたすら解析を急いでおられたんだ
…これが何を意味しているかわかるかね
…そこまで慎重にならざるを得ない程に
黒の導力器が危険だと…博士は判断されたんですね……


君が疑念を抱くのも無理はない
今回犯人は博士を拉致する為に中央工房を襲っているが
普段博士は中央工房よりも自宅のラッセル工房にいることの方が多い
だがあの日 犯人達が博士の自宅を訪れた形跡は見つからなかった
つまり…彼らは博士の居場所を事前に知っていたことになる
そんな正確な情報をどうやって手に入れることができたのか…
黒の導力器にしてもそうだ
あの白煙の中であんな小さな物を探し出してカペルと一緒に持ち去る…
そんな行動は明確な目的がなければまずありえない…
だとしたら
この犯人は……

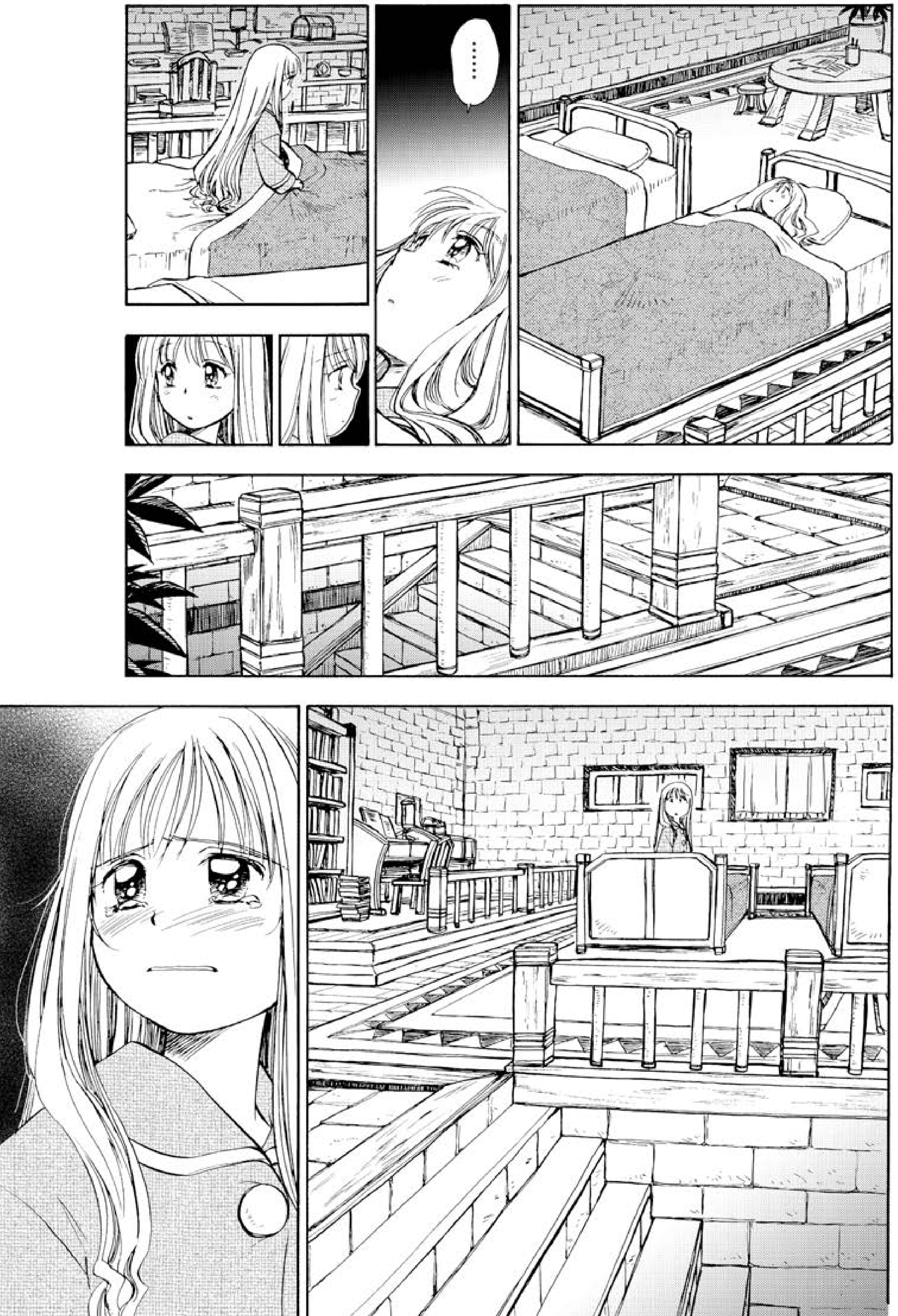

あの夜…ツァイスで起きた導力停止現象の原因が黒の導力器であることも認識している可能性が
…極めて高くなりますね…
そうだ…！犯人といえば
結局 博士をさらったのはあの親衛隊の連中だったのかね!?
…はい
皆さんが目撃した男達の仕業であることは間違いありません
彼らが王室親衛隊と関係があるかはまだ不明ですが
か…関係ないのかね？
…ただの賊にあんな精巧な軍服を用意できるとは思えないんだが…
そういえば…
この間も親衛隊の巡洋艦がルーアンの港に現れたと記事があったような…


王都を守るべき親衛隊が他の地方をブラブラしてるのはいただけないな…
こういうことをしているといざという時信用してもらえなくなるんだよ
情報部…
リシャール大佐率いる軍の新設部署だよ
この近くに彼らの本部レイストン要塞があるんだ
それに比べて…
情報部の軍人さんはたいしたものだね
あの事件の日君達と入れ違いで情報部のカノーネ大尉が応援に駆けつけてくれてね
混乱していた現場の収拾に全力を尽くしてくれたんだよ
以前から情報部の活躍はリベール通信の記事で知ってはいたが
実際に見るとさらにいいねぇ
カノーネ大尉の美人っぷりも…実にいい！


……
そうだ
近くには情報部という心強い味方もいる
容易なことではないかもしれないが…
だからこそ改めて
遊撃士協会に依頼を願いたい
もちろん私も…
できることがあるならばなんだって協力しよう

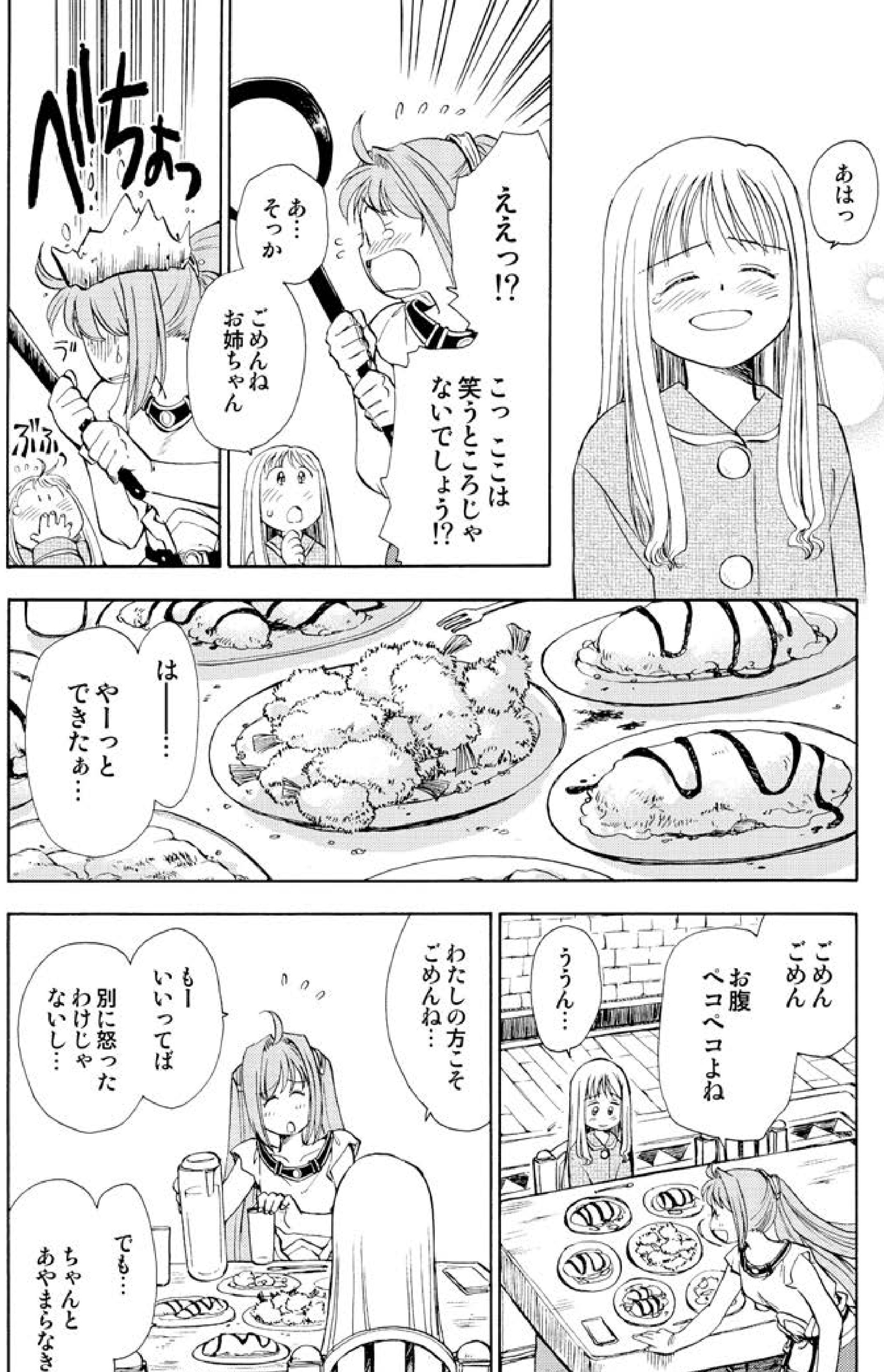

どうかラッセル博士を助けてほしい
中央工房の…
ツァイスの街の…
リベール王国の為…
どうか…
ティータくんの為に……


カコン
…コン
カコン
ガコン
ガゴッ
ゴゴッ
おはよう!!
おお
起きたかティータ
ウィィィン…
ガゴン
ガゴゴゴゴ
ガゴゴ…
ガン


……


がっしゃん!!
ガシャガシャーン
びくぅ!
ガチャン
ガチャ ガチャ
ばたばた
ばたばた
あ…
おはよう ティータっ!!
…あ


ごめんね! 騒がしくしちゃって
すぐ片づけるから ちょっと待…
もく もく もく もく
うわ!!
じゅううう
ちょ
ちょっと待ってててっ
この料理はね 玉子をひっくり返すタイミングが一番難しいの!
けど…心配しないでね
なんてったって あの父さんと ヨシュアを うならせた エステルさんの 自信作なんだから……!
……よーし
いっくわよー
どおおりゃあああ!!
べちゃっ
えええー
なんで あんな所に…
あーぁ
く…っ
このーっ


あはっ
ええっ!?
こっ ここは笑うところじゃないでしょう!?
へちょっ
あ…そっか
ごめんね お姉ちゃん
ぷふっ
は――…
やーっとできたぁ…
ごめんごめん お腹ペコペコよね
ううん…
わたしの方こそごめんね…
もーいいってば 別に怒ったわけじゃないし…
でも…ちゃんとあやまらなきゃ


わたしのせいで あの人たちに逃げられちゃって
お姉ちゃんやお兄ちゃんやアガットさんの足をひっぱっちゃって…
本当に…ごめんなさい
アガットさんの言うとおり… わたしには何の力もなくて…
なんにもできないくせに わたし…
あのね…ティータ
あたしだって…おんなじよ?
ヨシュアやアガットに比べたらあたしはまだまだヒヨッ子で…
ふたりに遠く及ばないこともわかってるの


だからって
自分がなんにもできないなんてあたしは思わないわ！
だってそんなの その気になれば
いくらだって見つけられるもの！
むむ？
信じてないな？
そうね… 今のあたしができることは…


びくっ
博士を助けに行くために しっかり食べて体力つけること！
じゃあ
いっただきまーす!!
い…
いただきます！
あーん!!
エステルお姉ちゃん
このオムライス…
なんか…変な味がする…
うわー!! それは食べちゃだめー―っ!!


ヨシュア!!
お兄ちゃーん
おはよう
もうお昼だけどね?
ヨシュア…どうだった?
ちょっと…!!
なんであんたがここにいるのよ!?
いて悪いかよ
手掛かりは見つかった?
……
…だけど断片的なりに話を聞くことはできたから
なるほど
じゃあとりあえず遊撃士協会に戻ってみるか
そ…っ
そうじゃなくて…!!

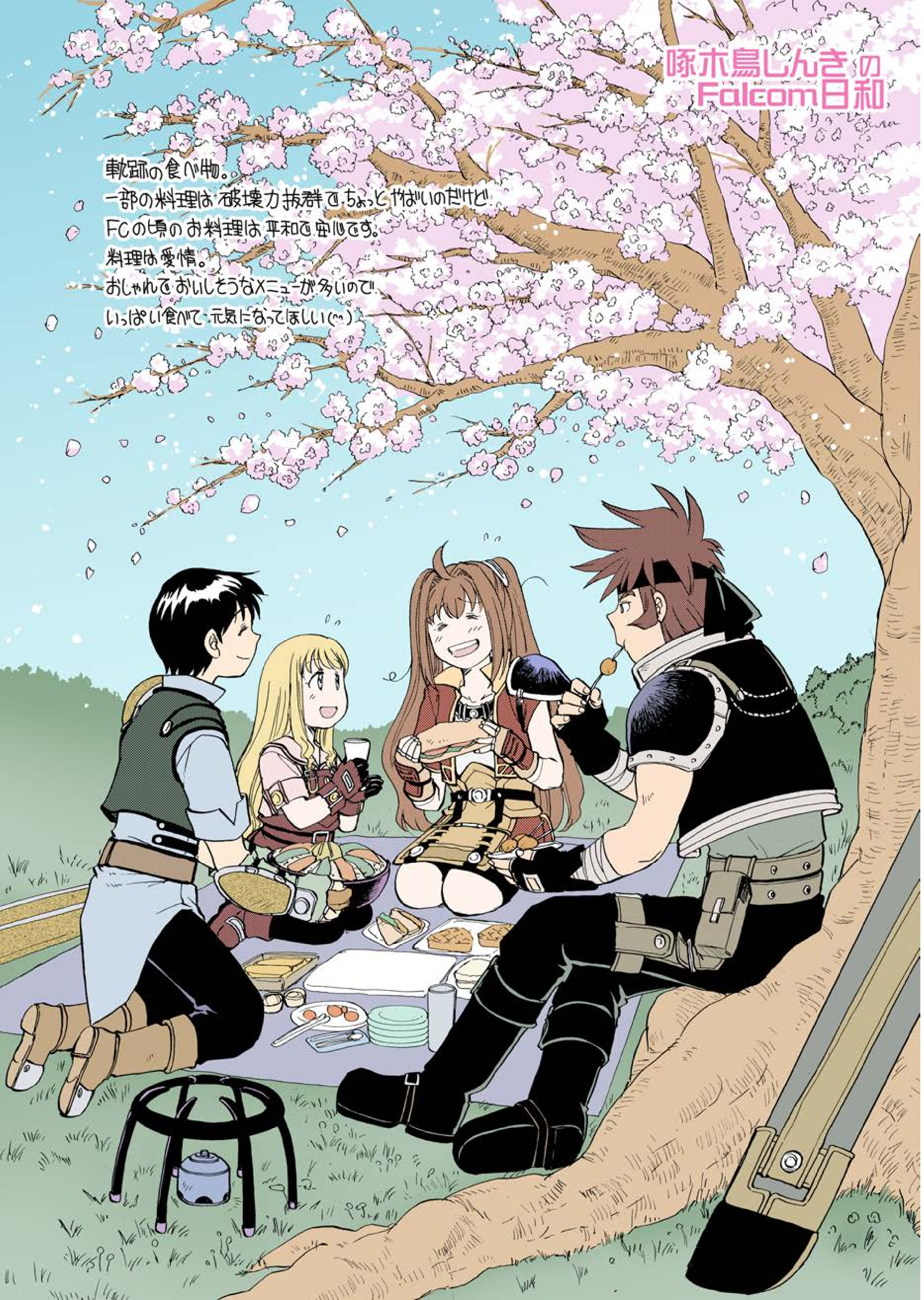

だって…アガット…撃たれたんでしょ?
少しは安静にしてたほうが…
たいしたケガじゃねぇよ
こんなもん
気合いで治る!!
だったら…
せめてその服なんとかしなさいよ
そーゆーの見てるこっちが痛々しいんだからっ
たく…
めんどくせーな…
あ…
あの…
アガットさん
あ?
いろいろ…迷惑かけてごめんなさい
それと…
助けてくれてありがとうございました!
あ…あの
別に助けたわけじゃ
アガットさんは…
…おっ


お洗濯は得意ですか!?
は?
お裁縫は…どうですか!?
いや…
得意…ってわけじゃあねえが…
わたしは
そういうの得意ですっ!!
わたし…できます!!
その服よかったら
わたしに直させてくださいっ!!
ペこ!


はあー
とっととすませてくれ
は…
はいっ!
任せてください!!


頑張ってね ティータ!!
いじめられそうに なったら全力で やり返すのよ!!
うんっ 頑張る!
いじめるか ボケッ!!
よーし…
あたしも 負けてらんない わよね!
エステルちゃあぁあん
聞いて聞いて エステルちゃあん
ナイアル先輩が ひどいのぉ
いじめっ子なの
仕事の鬼なの
ヤニ臭いのぉ
それは 関係ねぇ だろが!!


ナイアルさん
情報の ギブアンドテイクって 話だったろ?
ん?
そっちもあんま 芳しくないって 感じだな…
はぁ~
あの大ボケ カメラマンが やらかしさえ しなけりゃ…
だけどねぇ 私は言われた とおりにした だけなの~
あーーん
なのに先輩ったら 私が悪いって 怒るんだよぉ~
ひどいよねぇ そう思わない~
思う思う!
どこも 先輩ってのは 上から目線 なのよね!
そーなのー
負けちゃだめよ ドロシー!
こういう時こそ いい仕事して 先輩をぎゃふんと 言わせなきゃ!
エステルちゃん…
えへへ…
私もそう思って 雑誌用の写真を 撮ってきちゃった
見て 見て
さっき現像した ばかりなの


啄木鳥しんきのFalcom日和
軌跡の食べ物。
一部の料理は破壊力抜群でちょっとやばいのだけど
FCの頃のお料理は平和で安心です。
料理は愛情。
おしゃれでおいしそうなメニューが多いので
いっぱい食べて元気になってほしい(^^)


きれーい…!
これってどこの写真なの!?
この近くのレイストン要塞だよ
とってもかわいく撮れたでしょ♡
い…いつの間に…
きょ…許可なしに軍事施設を撮影したらまずいんじゃ……
えっへん
わー
すごーい!
あれ…?
これってもしかして…
次回に続く

英雄伝説 零の軌跡
～午後の紅茶にお砂糖を～

特務支援課メンバーが過ごす
クロスベル自治州のゆる～い(?)日常！



©YUKIYA MURASAKI, KUBOCHA

第1回

エレボニア帝国とカルバード共和国という大国に挟まれながらも、自治州として独立していたクロスベルを舞台とした『零の軌跡』、『碧の軌跡』シリーズ。続編となる『閃の軌跡』、『創の軌跡』においても激動の中にあり、様々な壁が立ち塞がっていたが、怯むことなく立ち向かっていったのがロイド・バニングス率いる特務支援課メンバーだ。そんな特務支援課メンバーが、もしかしたら過ごしていたかもしれない日常を描く、魅力たっぷりの一冊をご堪能あれ！

製品情報
好評発売中
著　　　：むらさきゆきや
イラスト：窪茶
定　　価：1,210円（税込）

第1話
『ティオとみっしぃの日』

やわらかな陽射しの降り注ぐ昼下がり。
早朝から任務に出ていたロイドは、ようやく特務支援課へと帰ってきた。昼食は取り損ねたけれど、ティータイムには間に合いそうだ。
リビングとしても使っている会議スペースに顔を出す。
「やあ、ただいま」
ロイドの声に、テーブルを囲んでお茶をしていた三人ともが、顔をあげる。
赤毛の青年――ランディが、ビッと片手を振った。
「よおっ、遅かったな！　どっかのお嬢さんと、お楽しみだったか？」
「お嬢さんではないけど、荷物を届けた先でね……」
「ほう⁉」
「お婆さんの話が終わらなかったんだ」
「それは、お楽しみじゃねえよ！」
「ロイドは真面目なのよ、ランディと違ってね」
ため息まじりに肩をすくめたのは、パールグレイの長髪が美しい少女――エリィだった。
その隣に座っていた少女が、席を立つ。
「ごちそうさまです」
ライトブルーの髪に白い肌――ティオは、まるで子どものように見える。実際十四歳で

しかなく、本来ならば特務支援課の危険な任務に参加するような年齢ではない。
しかし、彼女は魔導杖（オーバルスタッフ）を使いこなす実力者だ。
ティオは半分ほどミルクの残ったマグカップを持つと、ロイドの横を通り過ぎていく。
「…………ジト」
「え？」
すれ違いざま、睨まれたようにロイドは感じた。
自室へ戻ろうとするティオに、エリィが声をかける。
「ティオちゃん、明日は何時に出る？」
「……午後は混雑すると思います。朝食のあと、すぐに出発しましょう」
「そうね！　そうしましょ」
「はい」
いつも無表情でクールなティオだが、仲間に見せるやわらかい微笑みを残して、会議スペースから立ち去った。
ロイドは入れ替わるように座る。
エリィが紅茶と――昼食抜きを察したのか、パンケーキを切ってくれた。
「ありがとう」

「これ、私とティオちゃんで焼いたのよ」
「そうなんだ、美味しそうだね。そういえば、エリィたち、明日どこか行くのか？」
「ええ、私たち非番だから、ティオちゃんとお洋服を買いに行こうと思って」
「なるほどね……じゃあ、べつに機嫌が悪いってことはないのか……俺の気のせいだったのかな？」
「どうかしたの？」
「うーん……さっき、ティオに睨まれたような……？」
　ほほう、と身を乗り出したのは、ランディだった。
　ニヤリと笑う。
「そういや、最近、ティオすけがロイドにだけそっけないよな～」
「うっ……やっぱり？」
　他の人までそう感じるということは、自分の気のせいではないのだろう。
　エリィがテーブルを叩く。
「もしかして、ティオすけに何かしちまったのか？　あんなこととか、こんなこととか⁉」
「冗談でしょ⁉　まだティオちゃんは、子どもなのよ⁉　あ、子どもじゃなければいいってわけじゃないけど……とにかく、ダメよ！　そんなの」
　子どもなんだから――とエリィは強調する。



ロイドは首をかしげた。
「俺はティオのこと、子どもだとは思ってないけど……？」
「えっ⁉　まさか、ロイド……本当に……⁉」
エリィが唇を震えさせる。
ランディまで驚いて目を見開いた。
「おいおい、マジかよ……⁉」
そんな反応をされるとは意外だ。
「ふたりとも、どうしたんだ？　ティオは一人前の支援課メンバーだろ？　大人と同じように接するべきだと思うけどなぁ」
エリィがパタパタと手を振る。
「あ、そうよね！　そうね！　ティオちゃんは立派な支援課のメンバーだものね！」
ランディがうなだれていた。
「まぁ、ロイドだもんな～。どうせそんなことだろうと思ったぜ」
「な、なんだよ……俺、変なこと言ってないだろ？　それより、ティオのことだよ」
「そうだな。まぁ、そんなに難しいことじゃない」
「わかるのか、ランディ⁉」
「ロイド、よく聞け――何もしてないのに女が冷たいときの理由は三つしかない！　気づかず傷つけることを言ってしまったか、何かして欲しがってるのに何もしないからか、約束を忘れてるからか、浮気が見つかったかだ！」
「三つしかないと言いながら四番目があるうえ、それは俺とぜんぜん関係ないと思うけど……」
「数字なんて細かいことさ」
おおざっぱな性格のランディだった。
エリィが思案顔をする。
「ん～……ロイドってとんでもなく鈍いところがあるけれど、傷つけるようなことは言わないと思うわ」
「じゃあ、決まりだな！　何かして欲しがってるのに何もしないからだ！」
「何かって？」
ロイドの問いに、ランディが口ごもる。
「つまり、ナニカというのは……ええっとだな……はぁ、どっちもお子様みたいなものだし、その線はないよな」
「その線？」
「もう、ランディはバカなことばかり言って……あとは、約束を忘れてるとか？　ロイドに限って、そんなことないわよね？」

「約束か……忘れたりはしてないけど、まだ果たせてない約束ならあるかな」
「そうなの？」
「ああ、前にティオと、『ふたりでミシュラムのテーマパークに行く』って約束したんだ」
「は⁉」
「でも支援要請は尽きないし、非番が重なっても、なかなか休めなくて……」
「待て待て！　非番の日でも仕事してるな～とは思ってたけど、そんな約束を放ったらかしてたのかよ⁉」
「ふたりで行くって、どういうこと⁉　ティオちゃんとふたりっきり⁉　ティオちゃんとロイドだけでテーマパークに行くの⁉」
　いきなり詰め寄られて、ロイドはひっくり返りそうになる。
「あ、ああ……」
　すべて肯定だった。
　突き飛ばされた。
　派手な音をたてて床に転がる。
「イテテ……何するんだよ？」
「それは、こっちのセリフだ、馬鹿野郎！　いいかよく聞け！
女の子との約束は緊急支援要請にも勝る‼」

　ずどーん、とランディが断言した。
「なんだって⁉」
　ロイドの背後で雷が鳴った――気がした。
　エリィがため息をつく。
「それは言い過ぎにしても、さして緊急でもない仕事より後回しにされてたら、約束を守る気がないか、忘れてると思っちゃうわね……ティオちゃんがかわいそうになってきたわ」
「いや、俺は忘れてたわけじゃなく、プライベートなことよりも仕事を優先しないといけないと思ってさ。だって俺たち特務支援課っていうのは、この街（クロスベル）の平和を守るためのものだから……」
「女の子の幸せより優先すべき平和なんてない‼」
　ふたつ目の雷鳴だった。
「非番を代わってあげるから、今からティオちゃんを誘ってきたらどう？」
「そんな、エリィ。悪いよ」
「私よりティオちゃんに悪いでしょ。ずっと待たせてたなんて」
「うっ……わ、わかりました」

「今すぐ！」
「は、はい！」
　そのようなわけで、ロイドはティオを連れて、ミシュラムワンダーランドに行くことになった。

　翌日――
　水上バスの扉が開くと同時に、ティオが桟橋へと降り立つ。すたすたと正門へ向かった。クールを装っているが、脇目もふらず、歩みも明らかに早い。
「ロイドさん、ミシュラムです」
「あ、ああ……」
　それは当然なのだけれども、瞳を輝かせているティオを見たら、ロイドは何も言えなくなった。
　つまり、自分の考えている『ミシュラム』と、ティオの言っている『ミシュラム』は重みが違うのだろう。
　ロイドは出発前にランディに言われたことを思い出す。

「いいか？　女の子を連れて行くってのはな、ただ行けばいいってもんじゃない」
「えっ、そうなのか？」
「その場所で楽しい思い出を作ってこそ、だろうが」
「楽しい思い出……」
「ああ、一生モノの楽しい思い出だ」
「一生モノの!?　なるほど、ティオと約束したときは、そんな簡単なことでいいのかと思ったけど……俺が甘かったようだ」
「百戦錬磨の俺が、ばっちり教えてやるよ」
「ありがとう、ランディ」
**　そうして、空が白むまで〝一生モノの楽しい思い出〟の作り方を教わった。**

「よし、今日は気を引き締めていかないとな」
「どうかしましたか、ロイドさん？」
「あ、ええっと……まずは入園チケットを買わないとね」
「それなら大丈夫です。この日のために、ＭＷＬ（ミシュラムワンダーランド）ワンデーフリーパスを買っておきました。すべての施設で自由に遊べて、ランチとドリンクまでついてきます」

「え？　それだと、俺が連れてきてもらったみたいになっちゃうけど……」
「……はっ⁉」
「もしかして、ずっと楽しみにしててくれた？」
「そ、それは……当然です」
「……ごめんな、待たせちゃって」
「いえ、わたしの一方的なお願いでしたから。あと、勘違いしないでください……わたしが楽しみにしていたのは、みっしぃに会えることですので」
「うん？　それはわかってるよ。ティオは大のみっしぃ好きだもんな」
「……ぜんぜん、わかってません」
「え？」
すたすた、とティオが足早に進んでしまう。
もしかして機嫌を損ねてしまったのだろうか？　ロイドは小首をかしげる。
――なるほど、こいつは難度の高いミッションだ。
小さく拳を握りしめると、ティオの後を追いかける。非番ということで装備（トンファー）は置いてきた。武器が役立つ状況とは思えないが、それだけに心許なかった。

ロイドたちはゲートをくぐり、ワンダーランドの奥へと進んでいく。
ふたりの後ろに、距離を置いて物陰に隠れつつ尾行する者の姿があった。
ランディである。
彼と一緒にエリィもいる。
それに、支援課で面倒を見ている身よりのない女の子――キーアもいた。
ランディは懐からオーブメントを取り出した。多様な機能を持った第５世代戦術オーブメント、通称《ＥＮＩＧＭＡ（エニグマ）》は、通信機能も備えている。
「こちら、ランディ……目標はミシュラムに入ったようだぜ」
スピーカーから流れてくるのは、彼らの上司であるセルゲイ課長の声だ。
『対象の様子はどうだ？』
「今のところ、手もつないでねぇな。現在、正門から鏡の城方面に向かって移動中」
『この支援要請の重要度は〝緊急〟だ。最優先で当たってくれ』
「了解！」

鋭い返事をし、ランディはエニグマを懐に戻した。
エリィが目を丸くする。
「これ緊急なの⁉　ていうか、支援要請なの⁉」
「そうだ」
「本部に報告されちゃうの⁉」
「……依頼者は、ロバーツ主任らしいぞ」
「頭痛がひどくなりそう……」
　ロバーツ主任とは、ティオの出向元であるエプスタイン財団の研究者で、彼女の上司にあたる人物だ。
　あっ、とキーアが指さす。
「ロイドたち、アイス食べてる！　いいな～、キーアも食べたい！」
「着いて早々に食べ物かよ……どういう段取りしてんだ、あいつらは？」
「ねえねえ、キーアもアイス食べたい」
「ついて来るならワガママ言わないって約束じゃなかったか？」
「ううぅ～……」
　涙目になりながらも、キーアは下唇を噛んでがまんした。
　ランディが肩をすくめる。

「しゃーねえな、後で買ってやるから。な？」
「ホント⁉　ランディ、やさしい～」
「あら、ごちそうさま」
「お嬢もかよ⁉」

　ロイドたちは、みっしぃアイスを食べていた。
　みっしぃをイメージしたグレーとホワイトのツートンアイスに、みっしぃの絵がプリントされたクッキーが乗っている。
「おいしいかい、ティオ？」
「はい……何より食べることができてよかったです。このみっしぃアイスは期間限定のうえ、１日３４４個限定で昼にはなくなっていると評判でした」
「なるほどね」
　だから、まず最初に来たというわけだ。
　ランディには、休憩するのは三つくらいアトラクションを回ったあとがいいと言われたけれど、ここは臨機応変に対処して正解だったろう。

味は普通のアイスだったように思うけれど、ティオが喜んでくれたならよかった。
「さて、どこへ行こうか」
ロイドは周りに視線を巡らせる。
ミシュラムのテーマパークは、楽しげな施設がいっぱいあった。先が長い。
そのなかでも目を引くのは鏡の城だろうか。
たたっ、と急にティオが駆けだした。
「え？　ティオ⁉」
「ロイドさん、みっしぃです！」
見れば彼女が駆けていく先には、みっしぃがいた。
こうして、着ぐるみに瞳を輝かせる姿は、歳相応の子どもにしか見えない。
こんなに喜んでくれるなんて、連れてきてよかったな、とロイドは思った。
「なにしてるんですか、ロイドさん！」
「え？」
見れば、カメラを持ったスタッフが待っている。
ティオのほうも、みっしぃの横に立って、髪を手櫛で直したりして、準備万端だ。
「記念撮影です」
「ああ、そうか。え、俺も写るの？」

「当然です……ロイドさんと来た記念なんですから」
「なるほど」
「ロイドさんは、そこ。動かないでください。みっしぃが隣で、わたしがその隣です」
「はい」
「みししっ★」
テキパキとしたティオの指示に、ロイドもみっしぃも軍隊の兵士みたいにビシッと従う。
みっしぃを中心に、左右に並んだ。
バックは鏡の城。
太陽は右上に輝いている。
なるほど、こだわりを感じさせるポジショニングだ。
スタッフが声をかけ、パシャリとカメラのシャッターを押した。帰りに正門の近くで受け取れるらしい。
「この写真、大切にします」
ティオが表情をほころばせ、熱っぽく語る。その相手は、みっしぃだったが。
「みししっ、楽しんでいってね～」
「はい」
みっしぃが、ぽむぽむとティオの頭をなでる。

いつものクールな表情のまま、頬を紅潮させているのが、なんだか微笑ましかった。
背後から甲高い声があがる。
「おっ、みっしぃだ！」
「わーい、みっしぃだ～‼」
小さな子どもたちが駆け寄ってきた。
ティオは名残惜しそうにしつつ、みっしぃから離れる。
みっしぃはＭＷＬの大人気マスコットで、もう記念撮影も終わったのだから独占するわけにはいかない。
それでも、すこし離れたところから、その姿を見つめ続ける。
走ってきた男の子ふたりが、みっしぃに体当たりした。抱きついたのかもしれないが。
「うおー、おれ知ってんぞー、みっしぃって、中に人いるんだろー⁉」
「見せて見せてー‼」
「みししっ、そんなことないよ～？」
「でも、父ちゃん言ってたもん！」
「言ってたー‼」
「みしし……」
スタッフまで弱り顔だが――教育方針は、ご家庭により様々だから仕方ない。やや無粋だとは思うけれど、とロイドは肩をすくめた。
「みっしぃも大変なんだな、ティオ」
感情の消えた顔をした彼女が、つかつかと歩いていく。
「……」
「えっ、ティオ？」
「あなたたちは、間違っています」
いきなり子どもたちに説教をしだした。その威圧感に子どもたちがたじろぐ。
「だって……父ちゃんが……」
「それは嘘です。みっしぃの中に人など入っていません」
「じゃあ、どうしてしゃべってるんだよー⁉」
「みっしぃは、しゃべるものです。当然でしょう。なんの不思議もありません」
ティオが本気で舌戦をはじめてしまった。
説得できればよかったけれど、そうそう都合よくいくはずもない。
「んじゃあ、みっしぃの頭を取ってみようぜ！　そしたら、わかるだろー⁉」
「……ッ‼」
無表情だったティオに怒気が宿った。
すっ、とリュックのなかに手を入れる。

ロイドがトンファーを置いてきているように、ティオもまた今日は魔導杖を持ってないわけだが。

その手には、戦術オーブメントが握られていた。

「エニグマ、駆動……」

ティオが魔法（アーツ）の準備に入る。

「待った！　待った！　ティオ、もう行こう！　そうだ、鏡の城に行ってみようか！」

慌てたロイドは、彼女の手をつかみ、引っ張って連れ出した。

「君たちも、みっしぃを困らせちゃダメだぞ⁉　じゃあね！」

ティオの迫力に涙ぐんでる男の子たちと、ゆるゆると手を振るみっしぃと苦笑するスタッフを残してロイドたちは鏡の城へと向かった。

離れたところから、その様子を眺めていたのは、三人——ランディ、エリィ、キーア。

「ねえねえ、ランディ」

「なんだ、キー坊？　まだアイスは無理だからな」

「みっしぃの中に人なんて入ってないよね？」

「え⁉　あ〜いや、それは……まぁ……いないような、そうでもないような……」

「だって、みっしぃはみっしぃでしょ？」

「ああ、そうだな……そうだといいな」

ランディが、キーアの純真な瞳に苦悩していると、ハッとエリィが息を呑んだ。

「大変！」

「どうした、お嬢⁉」

「ロイドとティオちゃんが……‼」

慌ててランディは、草むらに身を隠しつつふたりへと視線を送る。

まだ不服そうなティオを引きずるようにして、ロイドが鏡の城を指さしていた。

エリィが声を絞り出す。

「手……つないでる」

「……ああ、そうだな」

「つないでる……」

「まぁ、テーマパークだしな」

手くらいつないで当然だろう——お嬢も、たいがい初心（ウブ）だな、とランディは息を吐いた。

キーアが、そっとエリィの手をにぎる。

「エリィも手つなぎたいの？　じゃあ、キーアがつないであげるね」

「ん……ありがとう」
エリィの表情がやわらぐ。
えへへとキーアが笑い返した。



鏡の城に着くと、鐘の音が聞こえてきた。
見上げる。
「この鏡の城の一番上には、鐘があって……ふたりで鳴らすと、願いが叶うそうですね」
「そうらしいね」
入園時にもらったパンフレットに、そう書いてある。
ロイドは城を見上げた。
「ティオは鐘を鳴らすとしたら、どんなお願いをするんだ？」
「……そうですね」
じっ、と見つめてくる。
なんだろう？　とロイドは言葉を待った。
見つめ合う。

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

『も～っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気!!　オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント！　※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.171プレゼント係
1：お名前（ペンネーム可）
2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→（記事一覧から1つずつ）
3：アンケート①音楽アルバム『ZEMURIA GRAND ODYSSEY 19999-XXXXX』の感想は?
　アンケート②『軌跡』シリーズで一番好きなBGMは？
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

記事一覧

1:『イース』シリーズ3作同日リリース特集
2:も～っと集まれ！ファルコム学園
3:ファルコムニュース
4:『ZEMURIA GRAND ODYSSEY 19999-XXXXX』音楽レビュー
5:英雄伝説 空の軌跡
6:啄木鳥しんきのファルコム日和
7:英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を

応募締め切り　5月26日（月）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。

月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.171

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/